

特別レポート：中国国外への資金持ち出し  
のために利用される、公式銀行カード

ジェームズ・ポムフレット

マカオ 2014年3月11日（火） 米国東  
部夏時間 午後10時58分

（ロイター）－ロイターの調査によると、  
政府公認銀行カードを使用して、数十億ド  
ル相当を違法に海外へ持ち出す中国人が  
増えている。

この闇の金は、国境を超え、旧ポルトガル  
植民地で香港同様中国自治区である、賭博  
中心地マカオへ流れている。中国政府公認  
支払いカードのネットワーク、中国銀聯が、  
現金の経路になっている。

マカオの豪華カジノリゾート周辺の、砂ぼ  
こり混じりの入り組んだ通りの一角で、ネ

オンが光る無数の宝飾品店、腕時計店、質屋が、中国本土の客に銀聯カードで架空購入させ現金を渡す商法を、活発に行っている。これは、中国の厳しい外貨持ち出し規制をすり抜ける方法である。

最近のある日、チョイ・セン宝飾品・腕時計会社のほこりっぽい腕時計棚の奥にあるカウンターへ、中年女性が堂々と入って来た。彼女は、店員に銀聯カードを渡し、30万香港ドル（5万USドル）を現金で受け取った。「一般売上」の取引を示すクレジットカードの領収書にサインし、現金をハンドバッグに詰め、隣のポンテ16カジノへ入っていった。

引き出し額は、中国人個人が1日のうちに本土から持ち出せる金額の限度である2万元又は3,200ドルをはるかに上回っていた。「気にしないで。」取引の合法性につい

て尋ねると、店員は言った。「みんなやっている。」

銀聯とマカオ・中国の金融当局による内部討議資料は、これらの偽装売上による現金引き出しがこのような小売店で普及していることを示している。ロイターが閲覧した中国の中央銀行資料によると、中国の資金洗浄対策の規制や通貨輸出における制限は、慣行により破られている。中国当局は、銀聯の経路が汚職官吏や実業家による国外への送金に使用されていることについても恐れている。

ロイターが確認した資料によると、中央銀行である中国人民銀行（PBOC）は、この慣行が大きな問題となっていることに気がついているにもかかわらず、なぜもっと厳しく取り締まらないのかが不明である。

業界の専門家たちは理由を挙げる。施行力が弱い中国の文化、収入の80%が賭博から引き出されているマカオを経済的に傷つけることへのためらい、資金逃避－特に銀行カードの名前を通じて追跡できる場合－に対する寛容な考え。さらに、銀聯の、世界中の小売店における端末の普及も含む、急成長は、元を世界に通用する通貨にするという中国の戦略において、重要な役割を果たしている。

中国からどれだけの金が違法にマカオへ流れているのか、誰にもはっきりとはわからない。マカオ科学技術大学の准教授である譚志強は、さまざまな経路を通じて、年間合計1.57兆香港ドル(2,020億USドル)がマカオへ流れていると、推定している。マカオの財政の分析と、賭博業界関係者との面談により、見積もった金額だとのこと。

ある銀聯重役は、上海を拠点にするこの会社は、マカオやその他の地域における支払いカードの悪用に気がついていたが、取り締まりの権限は限られていると述べた。第一義的責任は、偽装が行われているマカオやその他現地当局にあることが、その理由だと述べた。

「言及されている問題は、数年前から存在していた。」と、匿名を条件に取材に応じたその重役は語った。「引き続き対策を講じている。」

## 政府の申し子

西側諸国では比較的知名度が低いですが、銀聯は静かに成長し、世界最大級のカード銘柄および支払いネットワークとして、142か国で受け付けられるまでになった。ニルソンレポートの公報によると、銀聯カードの

流通量は今や他のどの銘柄よりも多く、35億3千万枚、もしくは、全世界合計の4分の1近くに上る。ビザが、2013年前半のカード取引額4.6兆ドルと、取引額においてはいまだ世界を主導している。銀聯は、2.5兆ドルで2番手だった。

銀聯が中国当局に代わって問題を提起すれば、それは当局自体が起こした問題ということになる。カード銘柄は、中国国策の武器として見なされることが多い。

銀聯は、2002年に、PBOCおよび国務院すなわち内閣により設立された。設立時の株主は、中国の5大国有銀行を筆頭とする85の中国の銀行であった。銀聯の蘇寧現代表取締役会長や許羅徳元総裁のように、かつてのPBOCの幹部が組織の上層部を占める。上層部は取材には応じなかった。

銀聯は、国外のものを含む全てのカード発行元に、中国元での取引を銀聯の電子支払いネットワークを通じて行うよう要求している人民銀行令があるために、中国のカード市場を独占している。全ての中国の小売主と現金自動預払機は、中国元での取引を、銀聯を通じて行うことが義務付けられている。世界貿易機構は、2012年7月に中国は外国のカード銘柄に対して差別待遇を行っているとは断定したが、具体的な勧告は何も行わなかった。外国のカード会社は、中国での決済にはいまだに銀聯を利用しなければならない。

中国国外における銀聯使用の増加は、最終的には中国の資本勘定を開放し、公式に人民幣または元として知られている中国元を世界に広めようという、北京の多角的戦略によるものである。北京は、徐々に通貨の管理を緩め、資本移動に関するさまざま

な規制を緩和し、資本の国外への流出を容易にした。取り組みは、実を結んだ。世界的取引サービス組織である SWIFT のデータによると、人民幣は、ユーロを抜いて、今や貿易金融で 2 番目に多く使われている。

「（中国は）銀聯が世界中のさまざまな国々や領土のさまざまな市場を席卷しているのを見て喜ぶだろう。」上海にある復旦大学の中国反洗錢研究中心事務総長である何立新氏は述べた。「政府からの支援を受けている。まさに政府の申し子だ。」

同時に、これらの変化は、銀聯に対する法令遵守の課題を著しく複雑にした。カード制度により、通貨当局の資本勘定開放が進んでいる一方で、人々が不正に得た利益を国外へ送り出すことが可能になっていると、何氏は指摘した。資金洗淨の「単なる

手段ではなく、主要な手段である。」

マカオは、この活動への第一の入り口である。中国で唯一カジノ賭博が合法化されており、中国の賭博師たちが巨額の金を持ち寄って来る。マカオは、中国本土からは離れて統治されているため、この賭博天国へ本土から持ち込める貨幣の額には制限がある。しかし、賭博師たちは、マカオへ渡る際に貨幣の規制を逃れる方法を見つける。そして、このような本土民が、賭博のために目に見える形でマカオへ持ち込むと中国当局が考えている金の大半が、実際には、国外の口座へ流れているのだ。

銀聯の現金引き出し取引を取り締まる何らかの措置が取られれば、マカオは揺るがされるだろう。その金は、この領土の436億ドルの収入の大多数のよりどころとなっている、カジノ部門を潤しているからで

ある。マカオは、現在世界最大の賭博中心地であり、収入はラスベガスの7倍である。昨年、賭博収入は19%上がり452億ドルに上った。そのうちの40%近くが、税金として政府へ流れた。

北京は、この資本逃避が政府にはびこる汚職事件に寄与している点を、特に懸念している。PBOCにより2008年に実施された内部調査の報告書においては、銀聯カードは、汚職個人による資金の国外移動を容易にする主要な手段のひとつとして、認識されていた。中央銀行報告によると、慣行は急増していたとのこと。

多くのカード使用者が、資金を追って海外へ流出する。1990年代半ば以降、推定1万6,000人から1万8,000人の共産党官僚、実業家、社長、その他個人が、中国から「消えた」と、2008年にPBOCにより作成さ

れた別の報告書に示されている。－ 8,000  
億元（1,330億ドル）の資金も同時に持ち  
出されたとのことだ。

しかし、この慣行は汚職官吏に限ったこと  
ではない。あらゆる場所で使用可能な銀聯  
カードの、多額の現金を瞬時に利用できる  
利便性により、中国の一般市民は、はるか  
に容易に国外で資金を使用できるようにな  
った。

## 資本逃避

今日、流出の速度が速くなっている。

ロイターが確認した、マカオの金融監査機  
関であるマカオ金融管理局の機密報告に  
よると、マカオにおける、銀聯カードによ  
る取引額は、2012年の最初の4か月間の  
みで1,300億パタカ（167.7億ドル）に達

した。2011年全体での取引額881億ドルよりも多かったのだ。これらの取引のおよそ90%は、報告書によると、「宝飾品、装飾品や、高価格の腕時計類の売上に集中している」とのこと。

もしこの割合が年全体を通じて続いたとすると、2012年のマカオにおける銀聯を通じた売上額は500億ドル近くに上り、うち450億ドル近くが宝飾品関係の売上であったことになる。この額は、その年のマカオの賭博総収入の額をも超える。

「これらは、実際に発生した取引なのか？この金はどこから来るのか？」と、金融管理局の伊先龍副主席は、資料内で問うている。

また、文書内で述べたとされている。「各銀行は適正な監視を行っておらず、本気で

対処を行っていない。」「もしこれが続けば、元のさらなる開放に対する問いかけにも影響し得る。」

これらの現金引き出しに関わる全ての機関が、取引により利益を享受すると、業界筋は語った。小売業者は、両替商と同様のやり方で、為替レートでもうける。小売業者を監督するマカオの各銀行は、取引につき1～2パーセント取る。そして、中国本国の銀聯カード発行銀行は、取引全般につき1パーセント程度取るからだそうだ。

クレジットカード業従事者たちによると、現金引き出し行為は、マカオを越えて、台湾や日本や韓国を含む、中国人旅行者の行く先々に広がっているとのこと。

台湾政府の調査機関による報告によると、台湾における2012年の銀聯の現金引き出

し取引額は、前年のほぼ2倍である97.8億元（15.9億ドル）に達した。異常な銀聯の取引が見つかったことを考慮に入れ、台湾当局は、迅速な情報交換をもたらす違法な資金洗浄を防ぐための海峡を越えたしくみを構築することを検討する、と1月に述べたと、台湾の半ば公式の通信社であるCNAは報じた。台湾の内閣に相当する行政院は、案を検討している。

中国は黙っていない。10年前、中国政府は、資金洗浄を抑制する試みを開始し、以後、刑法を修正し、商業銀行における規制を強化した。

不正な送金の排除を試みていると、銀聯職員たちは言う。銀聯が取った大きな措置のひとつは、2012年6月に、銀聯カード発行銀行に対して、マカオにおけるいかなる取引も1日につき100萬元（16万6,000

ドル)までに制限するよう、要求したことだ。それまでの限度額は、500万元から1,000万元までであった。この制限は、実際の販売取引に適用される。

一方、他のカード会社は、この現金引き出しのしくみには関わっていないようだ。今回の取材で訪問したマカオの宝飾品店によると、ビザやマスターカードは、通常、現金引き出し取引には使用されないとのことだった。

ある競合カード銘柄の重役によると、そのカード会社は、銀聯で許されているこの種の現金引き出しを「一切容認しない」とのことだ。「宝飾品店に、いかなる方法においても、現金を渡させない。」と断言した。

「完全に違法だ…。銀行としてもカード業界としても、そのような行為を直ちに根絶すべきだ。」

地方当局が責任を

今回の取材での質問に対して、銀聯は、「常に、品物の購入無しに現金のためにカードを読み取らせることを厳しく禁止しており、そのような危険性に関する調査が進むよう、多くの面において協力している。」と書面で回答した。

銀聯の「運営規則」では、銀聯のシステムに加盟している国外の銀行は、不正な取引に携わったと認められる小売主の口座を閉鎖しなければならない、となっている。

しかし、銀聯は、「マカオ金融管理局のような地方当局が、国境を越えた不正とおぼしき取引の調査において第一義的責任を負う。」と言う。

マカオ金融管理局からの書面での回答によると、マカオにおけるカード関連商取引は「現行の厳重な監視の下にある。」とのことだ。

管理局は、「監視により摘発を受けた事例もあり、小売主も含む関係者に対して法的措置が取られた。」と言及したが、それより詳しくは述べなかった。

マカオ金融情報弁公室の室長、伍文湘（デボラ・ウン）氏は、銀聯は、最近、「関連する取引に違法なものが無いかを監視する」ために、より積極的に動こうとしていると述べた。

しかし、カード会社にはもっとできることがあると、取材で語った。「カード会社は、特定の小売主による異常に額の大きい、（また）頻繁に行われる取引を、何らかの

方法で監視すべきだ。」と湘氏は述べた。

無制限

綿密な監視が公言されているにも関わらず、慣行は公然と行われ続けている。

グランド・リズボア・カジノ内にある、香港上場会社である周大福が経営する宝飾品小売店において、店員は、客たちは1,000万元（150万ドル）相当までもの金塊を購入するために銀聯カードを使用し、—そのまま現金化できる、と語った。

周大福の広報は、それを裏付けた。「いかなる支払い方法であっても、カードを通す際に支払いが銀行から承認されている限り、顧客が購入できる金額に制限は設けない。」と述べた。

ラスベガス・サンズが経営するベネチアン・マカオ・カジノ内にある宝飾品店では、店長が、カードによる現金引き出しが、店の売り上げの大半を占めていると述べた。この店は、貴賓室の所有者や、中国本土からの大賭博師たちを引き寄せる「視察旅行」の主催者により、成り立っている。

「銀聯カードに上限は無いと言える」と、個人が特定できないことを条件に応じた、黒服の店長は言った。「利用限度額は全く強制されない。」

匿名を条件に取材に応じたラスベガス・サンズのある重役は、銀聯カード読み取り機を持ってカジノをうろつく業者は捕まっていると述べた。

「人々は、携帯用銀聯カード読み取り機を持ってカジノフロアをうろついている。」重

役は語った。「それらは、マカオでなく、中国にある（コンピューター）サーバーにつながっている。そのため、中国で現金を引き出しているようなものだ。彼らを見つけたら、追っ払っている。」

その慣行は、カジノの外においても存在する。マカオの銀行員によると、マカオの小売主たちは、最近、銀聯カードによる取引を、電子的に国境えた中国へ向けることによりこれまでよりも巧妙に隠し、マカオ当局の監視を逃れようとしているそうだ。

「彼らは、マカオのふたを閉めたが、より大きい中国のふたを開けた。」と、慣行を直接知っている銀行員は述べた。「小売主たちは、いつも悪知恵が働く。」

ロイターが確認した、銀聯からマカオの各銀行と取引先への10月29日付けの書面に

は、銀聯はこれらの慣行を認識しており、防止するための措置を取り始めたと書かれていた。マカオの各銀行と銀聯取引先に対して、ブラックリストへ載せ罰金を科すことにより、このような小売業者を取り締まるよう要請していた。

銀聯は、その書面において、銀聯に関連した商取引の全関係業者が「団結してマカオの銀聯カード取引市場の秩序を正し、信頼できるより長期的な発展を維持することを望んでいる。」と述べていた。

しかし、その書面が交付された後にマカオを訪ねると、現金引き出し行為が横行していた。

7か所のこの種の店舗内で、客がガラスのカウンターで銀聯カードを通し、実際には何も買わずに札束を受け取っているのを

目にした。

「銀聯カードで、いくらでもお好きな金額を支払えます。」と、ある宝飾品店のライという姓の赤毛の男は言った。黄色い標識に「人民幣歓迎。銀聯カード歓迎。」と書いてあった。

「実際には何も買わなくても良い。」腕時計と宝飾品がごちゃ混ぜに広げられた、ほぼ半分が空の陳列ケースのそばに立ち、ライ氏は言った。「人々が中国国外でお金を手にして、より多く賭けられるように、手助けしているだけだ。」

(マカオのファラフ・マスターと香港のイモウ・リーによる追加報告。ビル・タラントとマイケル・ウィリアムズによる編集。)